

学生相談室だより



2023年7月：松蔭大学 学生相談室

この数年、私たちの行動を大きく制限してきた新型コロナウイルス感染症が、令和5年5月8日から、5類感染症になったことで、かつての日常生活が戻ってきました。皆さんもコロナ以前の日常が戻るこの日を心待ちにしていたのではないのでしょうか。

一方で、最近、特に若い人の中で、人間関係のトラブルが増えているような印象があります。私の長い人生の中で、マスクをしていたのはたったの3年間なのですが、マスクをする生活に慣れてしまった自分がいます。久しぶりにマスクなしに外出すると、開放感と街に溢れる匂いに驚きを感じると共に、「マスクがないと表情管理に気を付けないといけないな」と少し負担に思っている部分があります。本来、友だちといろいろなところに行き、多彩な経験をするこの大事な時期に、皆さんはマスク越しにしか友だちと会っていませんでした。つまり、「密」な人間関係を避け、ちょっと離れた人間関係を築いてきたとも言えます。

これを機に友だちといろいろなことを話し合ひましょう。当たり前のことですが、人は自分が思うようには動いてくれないものですし、自分が何を考えているか、察してくれるとは限りません。少し勇気が必要かもしれませんが、「この人と仲良くなりたい」という想いがあれば、行き違いがあっても、必ず道はひらけると信じています。互いが人間関係を学んでいる途中、ということ意識しながら、積極的に人と関わり、いろいろな経験を積んでください。恐れることなくチャレンジし、失敗したとしてもそこから何かを学んでほしいと思います。学生相談室も含め、松蔭大学の教職員はみなさんの成長を応援しています。

学生相談室長 深谷野亜

共感を深めるテクノロジー ～AI 技術の芸術的受容～

観光メディア文化学部メディア情報文化学科准教授 秋廣 誠

生成系 AI は文章や質問から背景情報を引き出す能力を持つと言われています。例えば、私が使用している対話型 AI (GPT-4 May12 Version) に対して、「150 人の学生が 8 人掛けの椅子にすべて座り、2 脚の椅子が余っている教室には、何脚の椅子があるか？」という問いを投げかけてみたところ、AI は解法を明快に説明し、正答しました。さらに、「この問題は何歳の学力を念頭に作られたのか？」と問い直したところ、3～4 年生を対象にした問題であると指摘し、問題の意図まで正確に把握しました。大学のレポート課題の回答に対しても、対話型 AI は知識や視点の欠落をある程度指摘できるようです。

一方、生成系 AI の中には、英語の指示に基づいて現実的な画像やイラストを作り出すサービスが存在し、これが人気を博しています。筆者は美術が専門ですので、この動向に非常に興味を持っています。先述の対話型 AI の能力を踏まえると、近い将来、人間が作成したデザインやスケッチ、メモ、または口ずさむ曲を迅速に多角的に評価し、作者の人格を考慮に入れて、どのスキルを向上させるべきか、または何が不足しているかをアドバイスする「アート・トレーナーAI」が必ず登場するでしょう。

これは我々にとって、人生をより豊かにする可能性があると考えます。芸術の歴史を見てみると、創造の源泉は、より良い生活を求める葛藤や、社会と個人との摩擦から生まれてきたことがわかります。誰もが個々に抱えている問題意識や悩みは、他人から見ると、実はクリエイティブなアイデアの種であることが、個人専属のトレーナーAI によって見つけ出されるでしょう。また、現代は文章、視覚芸術、音楽を含め、あらゆるチャンネルの窓がすでに世界に向けて開かれています。これは、他者への理解を深める手段が多様化しているということです。

作品や表現が AI の助けなしで生み出されたかどうかを問うことも大事ですが、それよりも、アート・トレーナーAI の示唆によって日々我々の周囲に現れる他者の作品や表現の、その背後にある感情や葛藤を敏感に察知し、それを自身の教養として吸収する感性を育てることが重要だと考えます。AI の進化は、自己表現の方法を見つけ、創造性を育む機会を増やすだけでなく、他者による表現に対する理解を深め、共感の幅を広げる手助けをしてくれるでしょう。それが、人間の教養を高め、より豊かな人生を描く手段となることを期待しています。

【略歴】専門はメディアアート 修士(美術)

ここ数ヶ月、対話型 AI（人工知能）、生成 AI、ChatGPT（チャット GPT）に関する情報や話題が様々なメディア上で溢れています。ChatGPT の出現により、まったく AI に関する知識がなくても AI の技術とその能力を体感することができるようになりました。さらに 3 月からは、Microsoft のブラウザ Edge で Bing の検索エンジンを使用すれば、ChatGPT も意識せずに利用することが可能になりました。

このように AI 技術の進歩やビジネスへの活用が急加速している状況においても、文系の大学生の皆さんは、AI の知識や技術について学ぶのは理系の大学生であると思っているかもしれません。政府が 2019 年の 7 月に発表した AI 戦略 2019 において、文系理系を問わず、すべての大学生が AI リテラシー（AI・数理・データサイエンス）を学ぶ教育プログラムを展開するという目標を掲げました。これは、今後の AI 社会において、AI に関する基礎知識は必須の知識であることを意味しています。しかし、AI に関する専門知識は理系の大学で学び、文系の大学では AI に関する基礎知識だけ学べばよいと思いがちです。

AI 社会で活躍できる人材になるためには、技術的な知識に関する学びだけでなく、文系の大学だからこそ必要な学びがあるということを気づかせてくれる記事を紹介します。

「AI 社会の到来においては、すぐに仕事に役立つスキルや知識が重視されがちですが、自分の価値観を明確にしていくことが大事であり、リベラルアーツ的な学びこそが重要です。リベラルアーツは一般教養と訳されていますが、リベラルアーツ的な学びとは、科目に分かれていない、横断的な学びをしていきながら探求し、自分なりの解を見つけ出ししていくことです。」（神戸情報大学院大学の岸谷俊樹さん、AERA5 月 1 日・5 月 8 日合併号）

「皆と同じような選択肢を選んでいるときはあまり不安もないかもしれません。しかし、そうで

なくなった時、「これしか道はない」と思っていると追い込まれてしまいます。世の中には今ある選択肢の他にも、自分が知らない選択肢もあるし、まだ皆が知らない選択肢を作り出すことだってできるかもしれない。それこそ、リベラルアーツ思考であると思います。」（知窓学舎塾長の矢萩邦彦さん、AERA5 月 1 日・5 月 8 日合併号）

「ChatGPT 時代の必要スキルの 1 つは「AI を言葉で操る能力」であり、既成概念に必要以上にとらわれない発想をすることで、これから来る新しい時代でも価値を想像できる人間になれるでしょう。」（「文系 AI 人材になる」の著者 野口隆二さん、週刊東洋経済 2023 年 4 月 22 日号）

初期の対話型 AI は、キーワードにマッチした情報を抽出するだけの定型型 AI でしたが、ChatGPT は、要求した条件を考慮した選択肢も提示してくれる点が大きな進歩です。しかし、自分の価値観にマッチした選択肢が提示されているか、会社の経営方針にマッチした選択肢が提示されているか、等を最終的に判断し、意思決定するのは人間です。

今後の AI 社会で活躍できる人材になるためには、文系の大学での学びにおいて、論理的に思考する能力、自分の価値観にマッチした多様な可能性を認識し、既成概念に捉われずに選択肢を広げていける能力を修得することが最も重要であると考えています。

【略歴】

NTT 研究所において、ネットワークの設計・管理・制御手法の研究開発、サービス選択行動分析を中心とした各種データ分析手法の研究に従事。千葉工業大学社会システム科学部 経営情報科学科の教授を経て、現職では、AI、データサイエンス、情報関連科目を担当。

博士（工学）。

☆☆☆ 気軽に相談してください。メール相談も受け付けています ☆☆☆

学生時代は悩みが多く、将来のことにも不安をい多く多いと思います。たとえば「友人、異性あるいはサークルのことで悩んでいる」「緊張しやすく、思うようなことができず困る」「不安やイライラで気分がすぐれない」「自分の性格とか外見とかが気になる」「学業や進路のことで戸惑い、困っている」「先生とうまく関われない」など、どんなことでも構いません。気軽に相談してください。相談をすることで、ありのままの自分を理解し、その自分を生かしながら生きていけるよう願っています。相談時間ならびに担当者については、大学の掲示板・HP で確認してください。



メール相談